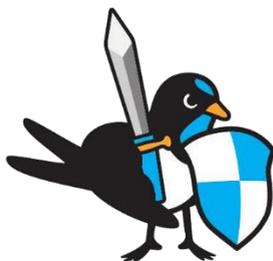


クラウドサービスの利用ガイド 2018



東京工業大学

現在、いろいろなクラウドサービスが提供されています。写真やファイルの保存、文書作成や予定管理のアプリケーションとしての機能も多様です。よく使われるものに Dropbox, Google Drive, iCloud, Evernote*等があります。

このガイドには東工大でクラウドサービスを利用するときの注意点をあげました。あわせて「情報倫理とセキュリティのためのガイド」も読んで下さい。

- [1] クラウドサービスの特徴 (共有)
- [2] クラウドサービスの特徴 (データの容量)
- [3] クラウドサービス一般の注意点
- [4] スマートフォン・アプリの利用
- [5] アプリケーションと連携したクラウドサービス
- [6] クラウドへのアクセスとログアウト
- [7] クラウドサービスと研究データや個人情報
- [8] クラウドサービスによるデータの解析
- [9] トラブルと法律



[1] クラウドサービスの特徴（共有）

クラウドサービスを利用すると、自分の複数のデバイスのデータをバックアップしたり、データを共有したり、データを同期するのに便利です。

共有設定をすれば、他人ともデータを共有できます。データを共有する方法には、共有相手（メールアドレス）を登録する方法、共有ファイルや共有フォルダへのアクセス用の URL リンクを共有相手に知らせる方法があります。

[2] クラウドサービスの特徴（データの容量）

クラウドサービスを利用するとデバイスのメモリーとは別に大量の写真、動画、ファイルを保存しておくことができます。デバイスを買って替えても、古いファイルやデータをそのまま使い続けられます。

[3] クラウドサービス一般の注意点

大量のデータを保存し、その一部を容易に共有できるクラウドサービスは便利ですが、注意を怠ると危険なこともあります。たとえば、ファイルやフォルダのデータは、共有相手から第三者へ、場合によっては不特定多数の第三者のアクセスを可能にします。

データの共有設定の確認、とくに、共有している相手、アクセスの権限（閲覧のみ、編集も可能か）等を確認してください。誰でもデータをアップロードや削除できる設定にしておくと、第三者にクラウドアカウントを勝手に利用（のっとり）される可能性もあります。

クラウドサービスを利用する時には、次のようなことを心掛けてください。

クラウドサービスへの個人情報の保存は避けた方がよいです。もしも、必要な場合にはファイルは必ず暗号化して保存して下さい。

古いファイルやデータの定期的な削除等の適切な管理をして下さい。

アップロードしたデータがアクセス不能になる場合もあるので、大切なデータはクラウドサービスとは別にバックアップしておく

必要もあります。

[4] スマートフォン・アプリの利用

スマートフォンで写真やカレンダーを利用するために、Googleのクラウドサービスや iCloud がよく使われます。[3]の一般的注意点があてはまります。

[5] アプリケーションと連携したクラウドサービス

PCのアプリケーションにはクラウドサービス(名称がストレージの場合もある)と連携しているものがあります。たとえば、MicrosoftのOneDriveは、Office Premium、Office 365*の付加的に利用できます。東工大のアカデミックライセンスで利用できる Adobe のソフトウェアの Adobe Creative Suite*をインストールすると Adobe のクラウドのストレージが付加的に利用できるようになります。

アプリケーションだけを利用しているつもりで、実際にはクラウドの機能も利用している場合があることも忘れないようにしてください。

[6] クラウドへのアクセスとログアウト

Dropbox、iCloud、マイクロソフトアカウントやグーグルアカウント等、クラウドサービスは、いったんログインするとログイン状態続きます。クラウドサービスを意識して使わないか、クラウドサービスのソフトウェアをアンインストールしないと、クラウドへのアクセスが止まらない場合もあります。

ファイルやフォルダの共有設定(本ガイド[1])と組み合わせると、予期しない情報漏えいの危険もあるので注意が必要です。

アカウントのパスワードの使い回しも、予期しない情報漏えいの危険を高めるので注意が必要です。

[7] クラウドサービスと研究データや個人情報

実験のデータ、容量の大きい研究データ等を、複数のデバイスや共同研究者の間で共有する場合にもクラウドサービスは便利です。共同研究よりも少し範囲の広く(人数の多い)共有される場合として、



講義や演習課題の公開等にも利用されることがあります。

研究データや個人情報の漏えいが起きないように十分に注意が必要です。

[8] クラウドサービスによるデータの解析

クラウドサービスで送受信したデータは、クラウドサービスに組み込まれた検索機能や法令順守※等の目的で、データの内容に対して一種の解析操作が行われる場合があります。これらの解析操作は、クラウドサービス事業者が委託する第三者が実施することもあります。暗号化を忘れないようにしましょう。

(特に教員は高い秘密の保持が求められるデータのアップロードは避けましょう。)

※クラウドサービス事業者のある外国の安全保障上の要請も含まれます。

[9] トラブルと法律

クラウドサービスの規約の多くは、サービスに適用される法律が日本法ではないこと、紛争解決の手続が外国の手続であることを定めているので注意して下さい。

**本ガイドに記載したサービス名やソフトウェア名は各社の登録商標です。

[無断転載禁止] 2018.8 クラウドサービスの利用ガイド Ver.1.2
東京工業大学情報倫理専門委員会
<http://www.titech.ac.jp/rinri/>
Email: cce@jim.titech.ac.jp